

# 白門経友会

## 卒業おめでとう

—みなさんの新たな船出によせて—

白門経友会会長・経済学部教授 松丸 和夫



二〇一三年正月の箱根駅伝は、大変残念な結果に終わりました。新たな再出発を多くの学生、卒業生は期待しています。また、一昨年は、三月一日の東日本大震災の影響で卒業式典が中止となりました。当たり前のことが当たり前にできることを喜びましょう。同時に、なかなか復興が進まない被災地の皆様の悲しみや苦しみに引き続き

思いを馳せましょう。大震災の教訓に学ぶこと、これは私たちの今後も持続する責務だと考えます。

去年、みなさんはそれぞれの課題に向かつて、本当に汗まみれになって奮闘されていたのではないのでしょうか。

一昨年の就職協定変更により、企業の新卒採用活動の開始が一月一日の解禁に変わり、「短期決戦」が叫ばれる中、

早々と企業から採用内定をもらった人も、公務員採用試験の本番を控え、追い込みで休む暇もなく机に向かっている人もいます。企業訪問や最終面接で、焦りを感じながら満員電車で揺られ続けた人もいます。なかなか内定が出ず、卒業後の展望を失い、

心が折れ、意欲をなくした人はいませんか。

二〇一三年の春に大学を卒業する皆さんの世代は、政権交代後の円安やデフレ不況からの脱出に期待を持っていることでしょうか。しかし、日本の有名大企業の赤字決算や大規模な人員削減も報道されている昨今です。大学を卒業するけれど、まだ今後の予定が立っていない人、素直に喜べない心境の人がいることを私たちは知っています。

それでも私は敢えて言います、卒業おめでとう。大学を卒業すれば、みなさんはもはや学生ではない。でも人生には完全も完成もないのですから、みなさんの新しいスタートを喜んで送り出したい。それが皆さんの母校となる中央大学関係者の本音です。そして、

たいつでも母校に「元気でもどっておいで」と呼びかけたい気持ちです。よく社会人になると学生の時のように甘くはない、と警句が発せられます。現実の社会には法律や常識、意欲や善意だけでは解決しない問題がたくさんあります。問題を解決するために皆さんのこれまでの経験と知識を総動員して下さい。でも、一人だけで悩み、一人で立ち向かおうとしても手強い問題

ばかりです。そんなときこそ、これまでの人生で得た友人や先輩、そして大学教職員に相談してみましょう。

白門経友会は、第一に経済学部の卒業生の集まりです。第二に、現役の学生も会員です。会費は頂きませんが、いろいろな行事等で卒業生である学員と交流することができます。第三に、経済学部の教職員も構成員になっています。私は、二〇〇九年の六月に会長に就任して以来、こうした白門経友会の構成・成り立ちのありがたさを折に触れ実感しています。

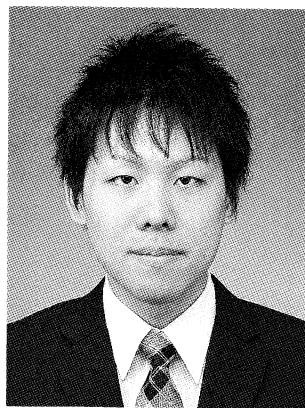
人間は一人では生きられない。一人ではなかなか強くなれない。だからこそ、白門経友会は緩やかなつながりと結びつきを大事にしながら、現役学生から卒業生の大先輩までを包摂する組織としてこれまで二〇余年の歴史を継続してきました。

この度ご卒業される新学員のみならず、母校中央大学と経済学部を誇りを持ち、そして愛して下さい。そしていつでも、「ただいま」と元気な姿を私たちにを見せて下さい。白門経友会は、いつでもみなさんのそばにいて、お役に立てるよう努力します。元気でいてらっしゃい。



# 楽しくて有意義な忘年会

渡辺 将大 (鳥居鉦太郎ゼミ3年ゼミ長)



平成24年11月30日の常任理事会後に立川の若草茶屋で開催された忘年会では、お忙しい時期にもかかわらず学員・学生合わせて25名の参加者が来てくださいました。

鳥居(鉦太郎)ゼミ、米田ゼミ、佐藤ゼミ、丸山ゼミ、濱岡ゼミの各学生による個性的な自己紹介が行われたのちに、歓談の時間となり、終始和やかな雰囲気の中、学員と学生の間で活発なやりとりが行われました。白門経友会が重視している「縦の繋がり」を作るた

めの絶好の機会であり、私自身も普段なかなか接する機会のない教授・OBの方々とは様々なお話をさせて頂きました。

この会の最中に、学生と学員間の交流を深めるために「白門経友会」をお題にした謎かけ大会を開催致しました。こちらは兼ねてから私と佐藤文博教授とで何か催しを行おうと計画しており、学生と学員という世代の離れた中でも全員が楽しめるものは何かと考えていたところ、鳥居鉦太郎教授に「謎かけなんてどうだろうか」とご提案頂き、開催に至ることとなりました。

来月にクリスマスを控えているということもあり優秀者の商品としてプレゼントを用意させて頂き、大いに盛り上がりを見せまし

た。教授陣の方々の手がなかなか上がらない中で、学生が積極的に手を挙げ各自が即興で考えた巧みな謎かけを数多く披露頂きました。(中でも鳥居鉦太郎ゼミの田中ゼミ長の「白門経友会と柔道はどちらもOB(帯)が重要です」の謎かけには思わず会場から歓声が上がりました)

最後には斎藤顧問に審査員をして頂き、OB1名、学生2名の作品が優秀賞に輝き、プレゼントを獲得して終了となりました。

皆さんからもOBと現役学生とのコミュニケーションが深まる大変良い催しだったとご感想を頂き、また次回も引き継ぎできればと思っております。

2013年は白門経友会の公式HPの設立も決まり、学生も様々な場面でお手伝いをさせて頂くと思いますが、私自身も一人の学生として、今年度も白門経友会を盛り上げていけたらと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第23回

### 白門経友会

### 定期総会のご案内

1. 日時 6月1日(土)
2. 場所 中央大学多摩キャンパス 7号館 1回(予定)
3. 14:00 定期総会
  - ① 2012年度事業報告
  - ・決算報告
  - ② 2013年度 事業計画
  - ・予算案
  - ③ その他
4. 14:40 記念講演
  - 講師 片桐稔晴 経済学部教授
  - 演題(仮題) 日本の城
  - その見方と楽しみ方—
5. 16:30 懇親会
  - 会費 7,000円
  - 但しゼミ生は無料です。
  - 13:00より幹事会を開催いたしますので、役員の方は13時までにご参集下さい。

# 白門経友会のホームページの作成・運用について

佐藤 文博 (副幹事長)



2012年10月25日の常任幹事会の審議を経て、本会の活動の充実化に向け、標記について具体的な検討を進めることが了承されました。その後本会会員の笹尾昌樹氏(2006年3月卒)に協力を求め、同氏が所属するグラウンドキャッスル社に開発・運用を依頼しました。

内容に関して具体的な検討は常任幹事の鳥居(鉦)・濱岡・佐藤(文)によりWGを構成し進めることになり、今後は学生もメンバーに含める予定です。今後、3月末までに具体的なコンテンツをのせ、4月には稼働させる予定です。以後は内容を充実させ追加更新作業等を含め本格的な運用に入る予定です。ご期待下さい。

・現状での検討概要は以下の通りです。  
ホームページの目的について  
目的① 『白門経友会』の存在をWE B上に公にする。

ホームページは、今や公式情報源となる重要なツールです。きちんとした公的な情報発信により、確に本会の活動の理解を深め、学員からの信頼を得ます。

目的② 『白門経友会』の存在をアピールする

ホームページは、白門経友会の活動をアピールする場となります。どんな団体なのか、どんな活動をしているのか、どんなメリットがあるのか、など、具体的な新しい情報を広く発信していくことが本会の社会的認知を高めます。(理念については後掲しております。)

目的③ 『白門経友会』の会員管理／会員コミュニケーション

ホームページ内にシステムを組み込み、会員の情報を管理する事も出来ます。例えば、イベント情報や緊急連絡

事項を素早く一括送信したり、会員同士のサイト内交流も可能です。

システムを組まなくても、Facebookと連動させる事で、WEBコミュニケーションを形成する事も出来ます。会員同士の結びつきを深め、広がりがあり、『白門経友会』の目的の1つである、年代・業界を超えた相互扶助の実現へ貢献します。

以上の目的のもと、ホームページの具体的な内容については、以下をポイントとして入れ込んでいるところです。  
コンテンツ① 『白門経友会』の概要  
『白門経友会』とは？を分かりやすく説明します。

コンテンツ② 『白門経友会』の活動情報発信

『白門経友会』の活動情報を、出来る限りリアルタイムで発信することで、閲覧者に有意義な情報を伝えることが出来ます。

コンテンツ③ 『白門経友会』へのお問い合わせ

『白門経友会』への質問を受け付けるページです。双方向コミュニケーションの窓口となります。

コンテンツ④ 『白門経友会』の会員管理機能システム

会員の情報を手軽に管理し、事務局

と会員のコミュニケーションを図れます。

会員同士、クローズした世界の中で、安心したコミュニケーションを図ることが出来ます。

HPに掲載する

## 「白門経友会の理念」(案)

濱岡 剛

白門経友会は、中央大学経済学部の卒業生、教員職員、学部学生という三者の間の交流を活性化し、絆を形成することを通じて中央大学の発展に寄与することを目的として設立された親睦団体です。

経済界を始めとして各界で活躍している卒業生が互いに話し合い情報交換できる場を提供するとともに、教職員や学部学生とのつながりも密にして、今大学で学んでいる「学部の学生達と共に勉強して、日本を見る眼、世界を見る眼を持った地球人として活躍する」(谷本利千代初代会長、中央大学元理事長)ことを目指しております。

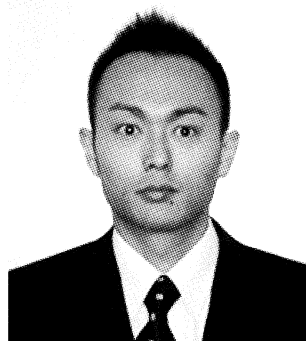
(注) 引用は会報「白門経友会」創刊号(平成5年11月20日)より。

以上

え、あの先生が！シリーズ⑬

ぶい挨拶

経済学部准教授 佐々木 創



初めまして！佐々木創（ささきそう）と申します。北海道大学で学位取得後、三菱UFJリサーチ&コンサルティングという民間シンクタンクを経て、昨年（2012年）に着任いたしました。専門はアジア（特にタイ）を中心とした環境政策・環境ビジネス（特にゴミ）を研究しており、専門科目は国際公共政策を担当しております。

「なぜタイのゴミの研究なのですか？」

これは学生から一番よく質問されております。もちろん、学術的な意義や意味はありますが、実際は「本当に偶然」

それもかなり幸運の偶然」が重なり、気が付けば10年やっているうちに専門家としての地位に立っていた、というのが本音です。

一般的に地域研究者は、その調査国の何か（民族、歴史、特産物など）に興味を持って研究を始めますが、小生の場合は「ゴミ」ですので、当たり前ですが好意的な感情を持って研究を始めたわけではありませんでした。今ではどこへ行ってもゴミ箱は気になりますし、悪臭の中、ゴミを拾って生活する子供がいるような、目だけでなく鼻も覆いたくなる現場に調査に行き、どこへ行っても撮ってくる写真が汚いものばかりです。真は汚いものばかりです。妻からはすっかり「ゴミフェチ」呼ばわりされております。

しかし、ゴミは大変奥が深く、研究し甲斐がある対象だと考えています。それは私

ちの生活において必ずゴミを排出しています。例えば、毎日の生活に不可欠な家電製品の大半は、アジアで製造され、その過程で現地で産業廃棄物が発生しています。また、使われなくなった家電製品が適切なリサイクルルートに排出されなければ、中古品と称して海外に輸出され、リユース（再利用）されるものもあります。適正なリサイクルをされて、現地の環境破壊の遠因となっている事例もあります。家電製品に限らず、あらゆる製品とゴミ（再生資源）がグローバル経済社会において流通しているのです。

シンクタンク時代は、グローバル経済社会で流通する製品とゴミを適正に管理するため、国内のリサイクル法を国際的な制度と整合させることや、海外のリサイクル制度構築支援、日本の環境ビジネスの国際展開などを担当し、年間3か月ほど海外出張しております。

本学に着任してからも、同

分野の政策立案に関係する経済産業省や環境省等の研究会の委員をいくつかお引き受けしたり、国際会議に参加しながら、継続して活動しております。

右往左往しながらの初年度でしたが、1月末によく講義を無事に終えることができました。担当する国際公共政策では、ゴミだけでなく、様々な政策がグローバル経済社会との関係性を無視して立案することはできないし、日本の未来も考えることができなことを、身近な例から講義して参りました。昨今の報道の通り、本学の学生も「内向き」な学生が多く、インターネットで十分と考えている学生がいることには大変驚かされました。

「ネットでラーメン屋を調べても、食べたことにならないでしょう？」と少し煽りすぎたかな、と反省する部分もありましたが、「グローバル経済社会に無関心であることはできるが、無関係であることはできない」という現実を

編集後記

東日本大震災からまもなく2年になります。残念ながら復興への道なりはまだまだ遠く、被災した方々にとって厳しい状況は改善されていません。

時が立ち、震災に関する報道も段々少なくなってきました。個々では大きな支援は難しいが、小さい事でもずっと応援するという心が切だと思えます。

2013年 3月10日 第50号  
 発行 白門経友会常任幹事会  
 発行人 白門経友会編集委員長  
 鈴木秀男  
 〒192-0355 八王子市堀之内817番地  
 鈴木様方  
 TEL 042 (676) 8266 (代)  
 FAX 042 (674) 8668  
 E-mail: dome88@themis.ocn.ne.jp  
 郵便振込口座 00180-7-753686